

令和 8年 7月

3階病棟

●前月3ヶ月間に当院の回復期リハビリテーション病棟から退棟した患者数

50 名

●上記退棟患者の回復期リハビリテーションを要する状態区分別内訳

(1) 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後もしくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態	24 名
(2) 高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷の状態	4 名
(3) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の骨折の発症、2肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	13 名
(4) 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後又は、発症後の状態	6 名
(5) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態	1 名
(6) 股関節又は膝関節の置換術後の状態	2 名
(7) 急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態	0 名

●回復期リハビリテーション病棟における直近の実績指数

57.2

<算出方法>

$$\text{実績指数} = \frac{\sum (\text{退棟時のFIM運動項目} - \text{入棟時のFIM運動項目})}{\sum (\text{各患者の入棟から退棟までの日数} \div \text{患者入棟時の状態に応じた算定上限日数})}$$

令和 8年 7月

5階病棟

●前月3ヶ月間に当院の回復期リハビリテーション病棟から退棟した患者数

47 名

●上記退棟患者の回復期リハビリテーションを要する状態区分別内訳

(1) 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後もしくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態	21 名
(2) 高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷の状態	7 名
(3) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の骨折の発症、2肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	10 名
(4) 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後又は、発症後の状態	7 名
(5) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態	1 名
(6) 股関節又は膝関節の置換術後の状態	1 名
(7) 急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態	0 名

●回復期リハビリテーション病棟における直近の実績指数

54.05

<算出方法>

$$\text{実績指数} = \frac{\sum (\text{退棟時のFIM運動項目} - \text{入棟時のFIM運動項目})}{\sum (\text{各患者の入棟から退棟までの日数} \div \text{患者入棟時の状態に応じた算定上限日数})}$$

令和 8年 7月

6階病棟

●前月3ヶ月間に当院の回復期リハビリテーション病棟から退棟した患者数

52 名

●上記退棟患者の回復期リハビリテーションを要する状態区分別内訳

(1) 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後もしくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態	12 名
(2) 高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷の状態	16 名
(3) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の骨折の発症、2肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	17 名
(4) 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後又は、発症後の状態	5 名
(5) 大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態	1 名
(6) 股関節又は膝関節の置換術後の状態	1 名
(7) 急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態	0 名

●回復期リハビリテーション病棟における直近の実績指数

58.23

<算出方法>

$$\text{実績指数} = \frac{\sum (\text{退棟時のFIM運動項目} - \text{入棟時のFIM運動項目})}{\sum (\text{各患者の入棟から退棟までの日数} \div \text{患者入棟時の状態に応じた算定上限日数})}$$